Ｒ８　年度　学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	数学・数学Ⅱ（普）	単位数	4	担当者	田中・玉谷

1，教科書・副教材

教科書　新編数学Ⅱ（数研出版）
問題集　３TRIAL　数学Ⅱ＋Ｂ（数研出版）
参考書　チャート式　解法と演習　数学Ⅱ＋Ｂ（数研出版）

2，科目の目標

いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。

3，学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	４月 ５月 ６月 ７月 ８月 ９月	式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数	・整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について計算方法を理解させる。 ・数の範囲を複素数まで拡張した二次方程式および高次方程式を解くことができるようにする。 ・直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係について学び、様々な問題に応用させる。 ・角の概念を一般角まで拡張し、三角関数及び加法定理について理解させる。	７０	既習範囲
後期	10月 11月 12月 １月 ２月 ３月	指数関数と対数関数 微分法と積分法	・指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・増減表からグラフをかくこと、極値及び最大値、最小値を求める計算力をつけさせる。 ・定積分と面積の関係を理解させる。	７０	既習範囲

4，評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	基本的な概念、法則、用語、記号等を理解し知識を身に付ける。	定期考査・小テスト、宿題・課題
思考・判断・表現	数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考える。考察、表現、処理の方法を身に付け、的確に解決する。	定期考査・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	数学的な見方や考え方の良さを認識し、考察に活用しようとする。	グループワーク等、宿題・課題

5，学習にあたっての注意とアドバイス

復習を中心として、毎日、問題集に触れること。日々の積み重ねが学力の定着につながる。単位数が多いため、定期的に小テストを行う。生徒の進度に応じて内容を変更することがある。

Ｒ８　年度　学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	数学・数学Ⅱ(森・イ)	単位数	3	担当者	田中・山越・小野・宮﨑

1, 教科書・副教材

教科書　高校数学Ⅱ（実教出版）
問題集　ステップノート　数学Ⅱ（実教出版）

2, 科目の目標

いろいろな式、図形と方程式、指数関数、対数関数、三角関数および微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。

3, 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月 5月 6月 7月 8月 9月	第１章　複素数と方程式 第２章　図形と方程式	・整式の乗法･除法および分数式の四則計算について理解できるようにするとともに､等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。また、方程式についての理解を深め､数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くことおよび因数分解を利用して高次方程式を解くことが出来るようにする。 ･直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し､その有用性を認識するとともに､事象の考察に活用できるようにする。	53	既習範囲
後期	10月 11月 12月 1月 2月 3月	第２章　図形と方程式 第３章　いろいろな関数 第４章　微分と積分	・指数関数および対数関数について理解し､それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・角の概念を一般角まで拡張して、三角関数および三角関数の加法定理について理解し､それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・平均変化率、微分係数、導関数の意味を理解させる。 ・増減表からグラフをかくこと、極値及び最大値､最小値を求める計算力をつけさせる。 ・定積分と面積の関係を理解させる。	52	既習範囲

4, 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	基本的な概念、法則、用語、記号等を理解し知識を身に付ける。	定期考査・小テスト、宿題・課題
思考・判断・表現	数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考える。考察、表現、処理の方法を身に付け、的確に解決する。	定期考査・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	数学的な見方や考え方の良さを認識し、考察に活用しようとする。	グループワーク等、宿題・課題

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

復習を中心として、毎日、問題集に触れること。日々の積み重ねが学力の定着につながる。生徒の進度に応じて内容を変更することがある。

Ｒ８　年度　学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	数学・数学Ｂ（普）	単位数	2	担当者	田中・玉谷

１, 教科書・副教材

教科書　新編数学Ｂ（数研出版）
問題集　３TRIAL　数学Ⅱ＋Ｂ（数研出版）
参考書　チャート式　解法と演習　数学Ⅱ＋Ｂ（数研出版）

２, 科目の目標

数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

３, 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	４月 ５月 ６月 ７月 ８月 ９月				
後期	10 月 11 月 12 月 １月 ２月 ３月	数列 統計的な推測	・等差数列、等比数列およびその一般項、漸化式と数列の関係、帰納法の証明方法を理解させる。 ・統計的な推測の基礎となる確率分布、推定、仮説検定を理解させる。	７０	既習範囲

４, 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	基本的な概念、法則、用語、記号等を理解し知識を身に付ける。	定期考査・小テスト、宿題・課題
思考・判断・表現	数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考える。考察、表現、処理の方法を身に付け、的確に解決する。	定期考査・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	数学的な見方や考え方の良さを認識し、考察に活用しようとする。	グループワーク等、宿題・課題

５, 学習にあたっての注意とアドバイス

復習を中心として、毎日、問題集に触れること。日々の積み重ねが学力の定着につながる。定期的に小テストを行う。生徒の進度に応じて内容を変更することがある。